

ブルーノ・タウト

Bruno Taut

1880-1938 ドイツ

建築家。「ガラス・パヴィリオン(グラスハウス)」(1914)は表現主義の代表的な作品とされる。桂離宮や伊勢神宮をヨーロッパに紹介するなど日本に多大な関心を持ち、和紙、竹、漆器など日本の素材を生かしたモダンな工芸作品も発表した。

1880-1938

Architect. His "Glass Pavilion (Glass House)(1914)" is taken to be a representational work of Expressionism. He had a major concern in Japanese Architecture introducing the Katsura Imperial Villa and the Ise Grand Shrine to Europe. He introduced modern works making best use of Japanese paper and lacquer work.

ブルーノ・タウト

ガラスの建築積木 複製
ガラス



Bruno Taut

Glass building blocks reproduction
glass

＜ブルーノ・タウト展 アルプス建築から桂離宮へ 2007年2月3日～ 5月27日より＞ 「自然はそもそもクリスタル（水晶）の結晶のような構造をしている」とタウトは考えていた。タウトは62の積み木ピースを、5つの基本形態、5つの色を組み合わせで創作し、この積み木に「ダンダナー（おとぎの国）」と名付けました。この積み木を量産し国際市場へ販売する準備をすすめていたが、当時は実現化できず、後に、復刻版がつくられた。